



全国曹洞宗青年会の 活動紹介(七十二)

全曹青は、前期第二五期において創立五十周年を迎えました。二年間を通して多くの記念事業を展開し、中でも大本山總持寺では石附周行紫雲臺猥下にご親修を賜り、各記念事業においても身に余るご高配の数々を頂戴いたしました。その様な記念事業の集大成として発行したのが、創立五〇周年記念誌『LOG』です。

当会は一九七五年の創立より活動テーマに「大衆教化の接点を求めて」を掲げ、青年僧侶の資質向上はもとより、教化事業や頒布物の展開等の様々な活動を継続してまいりました。当記念誌は、その



創立五〇周年記念誌『LOG』ご紹介

事務局長 菅 悠生
すが ゆうせい

半世紀にわたる歩みを紐解くとともに、次世代の青年僧侶の活動にヒントを残すことを目的としたものです。当時の写真とともに年表形式で活動を俯瞰し、一部事業を特集ページで深く掘り下げております。さらに歴代会会長方の寄稿では、当時の活動への想いや現代の青年僧侶へのメッセージを伺いました。石附周行紫雲臺猥下におかれましても、全曹青第二期会長をお務めいただいた当時の、貴重なお話をご寄稿いただいております。記念誌編集にあたっては、半世紀という長大な足跡に圧倒される毎日でした。まず全曹青の創立当

時には、多くの社会問題に対して宗教の果たす役割が注目されておりました。当時の資料には社会との接点を模索する諸先輩方の熱意が随所に記されており、背筋が伸びる思いがいたしました。また活動中期から近年にかけては、全国



の青年僧侶をつなぐ連絡協議体としての全曹青の在り方も定まっていきました。取材として当時の会談しました。取材として当時の会長方や大事業の実行役員の皆さまにお話を伺った際には、記録に残っていない当時の様ざまな苦労や事業への想い、全国が一丸となつて臨んだ活動の意図を深く教えていただきました。こうした編集過程での学びがあつたからこそ、次世代に活動のヒントや想いをつなぐ記念誌として発行することができました。

創立五〇周年を経た全曹青は、今期第二六期のスローガンを「ともに歩む」とし、青年僧侶のより一層の連携と活動の活性化を目指し邁進しております。今回ご紹介した記念誌『LOG』は、まさに

諸先輩方が社会の中をともに歩んで来られた歴史であり、その想いを現代につないでくださったものです。熱意と活動の数々に恥じぬよう、現代の青年僧侶としてさらに次世代につなぐべく努めてまいります。

●全曹青公式HP『般若』で、記念誌『LOG』のWEB版を公開いたしました。是非ご一読ください。



公式HP『般若』



●執筆者プロフィール
菅悠生

広島県曹洞宗青年会 所属
第二五期五〇周年事業実行
副委員長